

「教職課程年報第12号」の発刊に寄せて

教職支援センター長

前田 研史

本年度は、教職課程の再課程認定を受けるため、申請書類を作成し提出する作業がいよいよ大詰めを迎えています。これまで教職支援センターでは、各学科のご協力をいただきながら準備を進めてまいりました。今回の再課程認定は、教育の現場が直面しているさまざまな教育課題に対応できる教員を養成するために、教育課程の内容を精選し、重点化することを目的として行われるものです。全国の大学の教職課程で共通的に履修すべき資質能力を示すものとしての教職課程コアカリキュラムも策定され、大学として教員養成教育の質をしっかりと保証することがますます求められてきています。

また、各地の教育委員会において教員育成指標が作成され、教員の経験年数に応じて求められる教員像が示されてきています。その育成指標では、大学を卒業し、教師として初めて着任した時点で求められる姿も明示されるようになりました。そこには、さまざまな側面から、新任の時点で必要な資質も具体的に記述されています。したがって、教員養成を行っている大学は、学生が卒業する時点でそれに答えられるように学生を育てていかなければなりません。保育や授業の実践力の基本を身につけていることを前提としたうえで、学校というチームの一員として他の先生方や職員の人たちと協働できる資質を身につけ、子どもたちに寄り添い続けることのできる感性をもった学生を送り出していくことが求められており、再課程認定を受けるこの機会に、あらためて大学としての責務を確認したいと思います。

一方、学生の皆さんも、自分自身であるべき教師像について考えてみて、日々の学習や実習の中でその姿に近づく努力を常に続けていってほしいと思います。この教職課程年報に掲載されている「教育実習を終えて」の文章などから、学生の皆さんが教員となることを目指して、自覚的に努力している姿をよく感じることができそうですが、夢の実現に向けてさらに頑張ってもらいたいと期待しています。

教職支援センターは、これからも教育部門と事務部門が一体となって、教職への道を目指す学生の思いが実現できるよう支援を行っていきます。